

よぬだ ところどころ



第四十四号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

牧野小山遺跡と小山の射室 イムロ

佐合武志氏の記録より「私の子供のころ、カジヤ井戸の傍らを木曽川の方へ歩くと松の木があり、この松の木の近くに石塚のようなこんもりとした場所があった。・・・この小屋のあったところが話に聞く射室(イムロ)であったかのように思われる。面積は一坪位であったであろうか。四方が石積みになっていたので・・・地肌から葺きあげた小屋の屋根はカヤ葺であったが・・・」

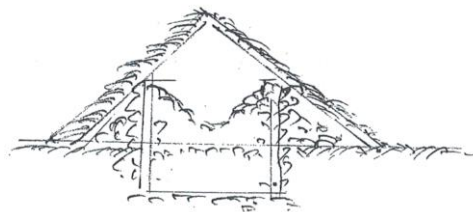
佐合氏は古代の人がこの土地を狩猟の場としたようで、木曽川縁まで追い込まれた動物をこの射室で待ち構えたものと推定している。

射室は、牧野小山遺跡の西端にあったとされる。佐合氏は現代の人なので、その記憶にあるということではこれが最近まであったことを示す。氏の記録によれば、この小屋の付近から鍬(やじり)が多く出土したということである。

写真は、岐阜県文化財保護センター調査報告書にある写真を転載したものである。写真中央に木曽飛騨川の合流点、木曽川を渡る川合大橋が建設され、南北に主要地方道の整備がされるときに埋蔵文化財の発掘調査がされたものである。カジヤ(鍛冶屋)井戸の位置は写真中左中央の森林と道路が交差するあたりの段丘崖下である。

注 鍛冶屋井戸は中世小山鍛冶があった場所とされる。牧野からの段丘崖下湧水と牧野の林野から得られる燃料を基盤としたものと想定される。この鍛冶集団は、上牧野の兼行の鍛冶と関係があるとされる。

写真は岐阜県文化財保護センター報告書によるものである。



深さ2尺・広さ1坪の射室(いむろ)

佐合武志氏による